

国語科 学習指導案

一. 指導期間 平成〇〇年〇月〇日(〇)～〇月〇日(〇)

二. 指導学級 京都市立〇〇中学校〇年生 〇組

三. 育成をめざす言語能力

・文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分け、目的や必要に応じて要約したり要旨をとらえたりすること。読むこと(1)―イ

・集めた材料を分類するなどして整理するとともに、段落の役割を考えて文章を構成すること。

書くこと(1)―イ

・単語の類別について理解し、指示語や接続後及びこれらと同じような働きをもつ語句などに注意すること。伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)―イ(エ)

四. 単元・教材名 5. 真実を語る ①「未来をひらく微生物」②「調べたことを正確に伝えよう」

③「文法2」④「漢字5」

五. 単元(教材)の目標(学習指導書より)

段落や構成に着目して文章を読み、学んだことを生かして事実を正確に伝えるレポートを書く。

教材①段落の役割に着目し、導入・本文・まとめや、問題提起・例示・詳細な説明などの働きについて読み分け、文章構成や展開を正確にとらえさせる。

教材②伝えたい事実や事柄、自分の意見や感想を明確にして文章をまとめさせる。

教材③「主語・述語」「修飾・被修飾」の関係について、観察を通じ理解させる。

六. 学習活動における具体の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	書く能力	言語についての知識・理解・技能
<ul style="list-style-type: none"> レポートを書くために説明文の段落の役割を理解しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 微生物について書かれた部分の事実や例示を読み分け、要約している。 	<ul style="list-style-type: none"> 段落の役割を正確に理解したレポートを書いている。 	<ul style="list-style-type: none"> レポート中、主語・述語の関係など正しい文法で文を書いている。

七. 教材観

八. 生徒観

九. 指導観

省略

十. 単元構想(全十五時間)

⑮	⑭	⑬	⑫	⑪	⑩	⑨	⑧	⑦	⑥	⑤	④	③	②	①		
プロセスⅢ 調べたことをレポートにまとめる。					プロセスⅡ 説明文の構成を理解し、レポートに生かす。語彙を豊かにする。					プロセスⅠ 見通しをもつ。						
<ul style="list-style-type: none"> ・レポートの全体交流会をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「調査の内容」「考察」「参考資料」を清書し、班で発表し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「動機・目的」「方法」を清書し、「内容」「考察」を下書きする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・構成を考えて目次を書く。 ・「調査の動機・目的」「調査の方法」を下書きする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題を決め情報を集める。 ・マッピングする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・辞書の利用を習慣化させ、語彙を広げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目的にあった国語辞典と漢和辞典の活用の仕方を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文の成分について理解する。(主述、修飾・被修飾、接続語、独立語) 	<ul style="list-style-type: none"> ・文の組み立てについて理解する。(連文節、並立、補助) 	<ul style="list-style-type: none"> ・結論部分から筆者の思いを読み取り、自分の意見とともにまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本文2をレポート形式にまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本文1をレポート形式にまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習課題を考える。 ・段落に見出しをつける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身につけた力を考える。 ・「未来に…」を通読する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の単元5に目を通しながら学習計画を立てる。 ・レポート課題を考え始める。 	学習内容	
<ul style="list-style-type: none"> ・相手に伝わる発表をしている。〔評価シート〕 	<ul style="list-style-type: none"> ・調べたことと自分の意見を書き分けたり、構成を工夫したりするなど、相手意識をもってまとめている。〔ノート〕 	<ul style="list-style-type: none"> ・適切な検索方法により必要な資料から情報を収集している。〔ノート〕 	<ul style="list-style-type: none"> ・目次と「調査の動機・目的」「調査の方法」について情報を取捨選択しながら書いている。〔ノート〕 	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な語句や語彙の意味・用法に関心をもち、国語辞典や漢和辞典を活用して調べている。〔ノート〕 	<ul style="list-style-type: none"> ・主述、修飾・被修飾、接続語、独立語の設問に50％～80％答えることができる。〔プリント〕 	<ul style="list-style-type: none"> ・連文節、並立、補助の設問に50％～80％答えることができる。〔プリント〕 	<ul style="list-style-type: none"> ・筆者の言葉を用いて結論部分をまとめ、自分の意見を書いている。〔ノート〕 	<ul style="list-style-type: none"> ・レポートの構成に従って、本文2の内容を短くまとめている。〔ノート〕 	<ul style="list-style-type: none"> ・レポートの構成に従って、本文1の内容を短くまとめている。〔ノート〕 	<ul style="list-style-type: none"> ・各段落に見出しをつけ、学習課題を考えている。〔ノート〕 	<ul style="list-style-type: none"> ・身につけた力をイメージし、書き込んでいる。〔ワークシート〕 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の学習計画に沿って学びたいことを書いている。〔ワークシート〕 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価規準(B基準〔評価方法〕) 	評価規準(B基準〔評価方法〕)		
													○	○	関	
															話	
○	○	○	○	○											書	
				○											読	
					○	○	○	○	○						言	
◇相互評価をすることにより、相手に伝わる交流ができるようになる。	◇お互いに伝え合うことによって、より明確に伝わる表現で書くことができるようになる。	◇お互いに伝え合うことによって、より明確に伝わる表現で書くことができるようになる。	◇班で話し合う時間をとることにより、情報の取捨選択ができるようになる。	◇教科書P137の例を参考にすることにより、マッピングできるようにする。	◇教科書P240を参考にすることにより、用途によって辞書を使い分けられるようになる。	◇教科書P199の問題を使うことにより理解できるようにする。	◇小学校時に学習した内容を提示することにより、理解できるようにする。	◇筆者の結論に対する自分の考えを書くことにより、まとめられるようになる。	◇「簡単に例えている部分」を探すことにより、構成がわかるようになる。	◇接続語にも注意して読み取ることにより、書けるようになる。	◇「簡単に例えている部分」を探すことにより、構成がわかるようになる。	◇「簡単に例えている部分」を探すことにより、書けるようになる。	◇グループで相談することにより、身につけた力を考えられるようになる。	◇「筆者が伝えようとしている真実は何か」と助言することにより、考えられるようになる。	◇教科書P136～140を参考にすることにより、学習計画を立てられるようになる。	◇支援

十一・本時

本時の目標：学習計画をもとに、今後の学習の見通しをもつことができるようにする。
 本時の展開：単元構想①

	指導者の活動	生徒の活動	指導上の留意点 ◇支援 評価場面
導入 五分	①単元名から、学習内容を伝える。 ②本時のねらいの提示をする。	①単元名から、これからの学習内容を知る。 ②ねらいを全員で音読する。	・「真実を語る」という単元名と、「事実をとらえ、正確に伝える」というサブテーマから、今回は「事実をとらえること」と「相手にそれを正確に伝えること」について学ぶことを伝える。 ◇声に出して読むことで本時の活動を理解し、意識できるようにする。
展開 二十五分	③「レポートの形式」を提示し、学習の見通しをもたせる。	③学習の出口の成果物をイメージし、これからの学習の見通しをもつ。	・「レポートを書くためにはどのようなことができるようになるか」「この時間に自分はどういうことを学びたいか」「どのようなことができるようになるか」「どのようなかをを考えさせる。」
展開二 十五分	④ グループ活動 学習の流れをワークシートで提示し、教科書の単元5をよく読みながら、学びたいことを相談し合い、各自ワークシートに記入するように指示する。	④単元のおおまかな学習計画をもとに、「学びたいこと・できるようにしたいこと」を各自書き、十五時間の見通しをもつ。	評価 今後の学習内容に沿って学習したいことを考えようとしている。(関)「ワークシート」 ・教科書の「単元5」のページを読むように指示する。 ・全体で確認するので、全ての欄が埋まらなくてもよいことを伝える。 ・班で統一しなくてもよいが、お互いによいようなことを考えたのかは伝え合う。
展開二 十五分	⑤グループ活動で考えた学習計画について、全体で確認する。	⑤各班で考えた「学びたいこと」を提示し、出た意見を確認し合うことで、クラス全体の大まかな学習活動をとらえる。	・時間がないようであれば、おおまかなところは全体で確認し、細かいところは指導者が次時まで預かる。
まとめ 五分	⑥自己評価をするよう指示する。	⑥自己評価をし、本時の学習を振り返る。	・自己評価項目 「単元5の学習で学びたいことを考え、見通しをもつことができたか」

本時の目標…身につけたい力を考えることで、課題を意識して読み取ることができるようになる。
 本時の展開…単元構想②

	<p>指導者の活動</p>	<p>生徒の活動</p>	<p>・指導上の留意点 ◇支援 評価場面</p> <p>◇声に出して読むことで本時の活動を理解し、意識できるようにする。</p>
<p>導入 五分</p>	<p>①本時のねらいと身につけたい力を提示し、全員で声を出して読むよう指示する。</p> <p>ねらい 身につけたい力を考えよう。 本文を読み、考えを組み立てよう。</p>	<p>①ねらいを全員で音読する。</p>	<p>・展開一で単元全体の「身につけたい力」を考えるので、その時まで（ ）のみ提示する。</p> <p>・前時に決まらなかった部分も決める。</p> <p>・レポート課題を考え始めたかどうかを確認する。（毎時間、声掛けをする。）</p>
<p>展開一 二十五分</p>	<p>身につけたい力 （見通しをもつ力） （具体的にイメージする力）</p> <p>②前時のワークシートを見ながら単元の流れを確認するよう指示する。</p> <p>③グループ活動 この単元（教材）を通して身につけたい力を提示し、班で、各時間につけたい力を考えることを指示する。</p> <p>④全体で確認する。</p>	<p>②ワークシートを見て、一時間ごとの学習活動をイメージする。</p> <p>③この単元を学ぶことでのような力がつかのかを提示された中から話し合って選ぶ。</p> <p>④意見を発表する。</p>	<p>◇黒板に提示することで、身につけたい力を考えられるようにする。</p> <p>◇自分たちで選ばせることで、より意識することができるようになる。</p> <p>評価身につく力を具体的にイメージして相談しようとしている。（関）〔自己評価〕</p> <p>・ほぼそろっていれば、左の欄の通りでなくてもよい。</p>
<p>展開二 十五分</p>	<p>身につけたい力 ①～⑮は時間数 番号は提示せず、どの時間に当てはまるかを相談するよう指示する。</p> <p>①②（関）見通しをもつ力 （関）具体的にイメージする力</p> <p>③（読）文章の構成を読み取る力 要約する力</p> <p>④（読）要約する力</p> <p>⑤（読）要約する力</p> <p>⑥（読）要旨をとらえる力</p> <p>⑦（言）主語・述語などを使いこなす力</p> <p>⑧（言）連文節などについて理解する力</p> <p>⑨⑩（言）辞書を活用する力</p> <p>⑪（読）必要な情報を集める力</p> <p>⑫（書）情報を整理する力（書）根拠を明確にして書く力（書）文章を読み合い参考にする力</p> <p>⑬（書）根拠を明確にして書く力（書）文章を読み合い参考にする力</p> <p>⑭（書）読みやすくわかりやすい文章を書く力（書）文章を読み合い参考にする力</p> <p>⑮（話）事実や意見など、わかりやすく話し伝える力</p>	<p>⑤四人グループで音読する。</p> <p>⑥「1」「2」に対する自分の考えをノートに記入する。</p>	<p>・四人で一段落ずつ回し読みをする。</p> <p>・1「三つの意味段落に分けること」2「微生物と未来はどうつながるのかを読み取ること」を指示する。</p> <p>1 ①～④、⑤～⑯、⑰～⑳の三つ。</p> <p>2 「微生物をよく調べ、活用していくことで環境問題が改善され、豊かで安全な地球の未来が作られていく。」（解答例）</p>
<p>まとめ 五分</p>	<p>⑤文章を三つに分けながら班で本文を音読するよう指示する。</p> <p>⑥⑤で読み取った二つのことについてノートに書くよう指示する。</p> <p>⑦自己評価をするよう指示する。</p>	<p>⑦自己評価をし、本時の学習を振り返る。</p>	<p>・自己評価項目</p> <p>「身につく力を具体的にイメージして相談することができたか」</p> <p>「自分の考えをノートに書けたか」</p>

本時の目標…段落に見出しをつけ、筆者が伝えたい真実をとらえることができるようにする。
 本時の展開…単元構想③

	指導者の活動	生徒の活動	指導上の留意点 ◇支援 評価場面
導入	①本時のねらいを提示する。	①ねらいを全員で音読する。	◇音読することで本時の活動を理解し、意識できるようにする。
五分	②身につけたい力を確認するよう指示する。	②第一時のワークシートを見直し、確認する。	筆者が伝えたい真実について考えよう。 ・毎時間、確認させる。
身につけたい力	文章の構成を読み取る力	要約する	
③説明文は「導入・本文・まとめ」に分かれることを伝え、前時に分けたまとまりを発表するよう指名する。	③「導入・本文・まとめ」に合わせて前時の三つのまとまりを発表し、板書をノートに記入する。	・導入…：段落①～④ 本文…：段落⑤～⑬ まとめ…段落⑭・⑮ ・板書は題名を書くスペースを空けておく。	
展開一 十五分	④グループ活動 段落ごとの役割を告げ、内容を表す見出しをつけることを指示する。	④班ごとに相談しながら、段落の内容を表す見出しを考え、書く。	評価各段落の内容に合った見出しをつけている。(読)「ワークシートまたはノート」 ◇「筆者が伝えようとしている真実は何か」と助言することで考えられるようにする。
導入：問題提起 《微生物は、地球の掃除をしてきているのである》 本文：例示や結論を導く根拠など 《廃棄物进行处理する問題の解決策として微生物の働きを利用する試みについて》 まとめ：根拠からたどり着いた結論 《微生物は、わたしたちに未来を開く技術を教えてください。》	レポートとの関連 調査の動機・方法 レポートとの関連 調査の内容	レポートとの関連 調査の内容	
展開二 二十分	⑤グループ活動 三つ四つのグループで集まり、「導入・本文・まとめ」の学習課題を考えるよう指示する。	⑤④でつけた見出しを出し合い、最も内容を表している学習課題を選ぶ。	評価最も段落の内容を表している学習課題を選んでいく。(読)「ワークシートまたはノート」
⑥全体で発表するよう指示する。	⑥考えた学習課題を発表し、全体で共有する。	・「まとめ↓本文↓導入」の順で発表する。 ・「導入」の発表を最後にすることで、次の⑦の展開へつなげる。	
まとめ 十分	⑦⑥の意見に「くなのは、どういうことか」と付け加え、自分の考えを書きよう指示する。	⑦二百字で、学習課題に対する自分の考えを書く。	・学習課題…『微生物は、地球の掃除をしてきているのである』とは、どういうことか
⑧自己評価をするよう指示する。	⑧自己評価をし、本時の学習を振り返る。	・自己評価項目 「段落の内容に合った見出しをつけることができたか」 「筆者の伝えたい真実について考えることができたか」	

本時の目標…具体的な例を読み取ることで、筆者の表現の工夫をとらえることができるようにする。
 本時の展開…単元構想④

	指導者の活動	生徒の活動	指導上の留意点 ◇支援 評価場面
導入	①本時のねらいを提示する。	①ねらいを全員で音読する。	◇音読することで本時の活動を理解し、意識できるようにする。
五分	ねらい 本文から具体的な例を読み取り、本文1をレポートの形式で書く。 ②身につけたい力を確認するよう指示する。	②第一時のワークシートを見直し、確認する。	・毎時間、確認するように指示する。
展開一 二十分	③本文を、根拠を明確にして二つのまとまりに分けるよう指示する。 ④グループ活動 本文1を、教科書P138のレポートの形式を利用して要約するよう指示する。	③段落五にある「一つは、…」 「もう一つは…」という言葉を参考にして、本文を二つに分ける。	・一つめ…段落⑥～⑫ ・二つめ…段落⑬～⑯ ・分けにくい生徒には、段落⑤は述べることの紹介をしているので、その中の言葉を参考にすることを助言する。 ・「調査の方法」や「参考文献」など、書かれていない項目もあることに、生徒が気づくよう、一つずつ当てはめて考えていく。 ◇接続語にも注意して読み取るようにすること。要約できるようにする。
展開二 二十分	⑤グループ活動 書いた内容をグループで確認するよう指示する。	④本文1「微生物を利用して環境問題を起こさない製品を作る試み」を、教科書P138「レポートの構成」に沿って要約する。	・机間指導をし、うまくまとめられている生徒のレポートは、褒めたり全体に紹介したりする。 ・数名の発表により、全体で確認する。 ・「目的や動機」…⑦・⑧段落 「研究の内容」…⑨～⑫段落
まとめ 五分	⑥全体に発表するよう指示する。 ⑦前時に考えた学習課題に対する自分の意見を書くように指示する。 ⑧自己評価をするよう指示する。	⑤お互いのレポートを読み合い、足りなかった部分などがあれば付け足す。 ⑥発表を聞くことにより、他の人の意見やまとめ方を知る。	・学習課題…「廃棄物を処理する問題の解決策として微生物の働きを利用する試み」とは、どのような試みなのか ・自己評価項目 「本文から具体的な例を読み取り、レポートの形式にまとめることができたか」

身につけたい力 要約する力

ねらい 本文から具体的な例を読み取り、本文1をレポートの形式で書く。

評価

評価場面

本時の目標…本文から、具体的な例を読み取ることで、筆者の表現の工夫をとらえることができる。
 本時の展開…単元構想⑤

導入	指導者の活動	生徒の活動	指導上の留意点 ◇支援 評価場面
五分	①本時のねらいを確認する。 ねらい 本文から具体的な例を読み取り、本文2をレポートの形式で書く。 ②身につけたい力を確認するよう指示する。	①ねらいを全員で音読する。 ②第一時のワークシートを見直し、確認する。	◇音読することで本時の活動を理解し、意識できるようにする。 ・毎時間、確認するよう指示する。
展開一 十五分	③前時に行ったことと同じ学習活動を、本時は「本文2」で行うことを伝える。 ④ グループ活動 本文2を、教科書P138のレポートの形式を利用して要約するよう指示する。	③前時のノートやワークシートを見て、方法や結果を思い出す。 ④本文2「すでに汚染された環境を微生物の力で元の状態に戻す試み」について教科書P138「レポートの構成」に沿って要約する。	・「調査の方法」や「参考文献」など、書かれていない項目もあることに、生徒が気づくよう、一つずつ当てはめて考えていく。 ◇「簡単に例えている部分」を探すことで構成がわかるようにする。 評価 レポートの形式に沿って、本文2の内容を要約している。(読)「ワークシートまたはノート」
展開二 二十分	⑤ グループ活動 書いた内容をグループで確認するよう指示する。 ⑥全体に発表するよう指示する。	⑤お互いのレポートを読み合い、足りなかった部分などがあれば付け足す。 ⑥発表を聞くことにより、他の人の意見やまとめ方を知る。	・机間指導をし、うまくまとめられている生徒のレポートは、褒めたり全体に紹介したりする。 ・数名の発表により、全体で確認する。 ・「目的や動機」…⑬段落 「研究の内容」…⑭～⑯段落
まとめ 十分	⑦前時に考えた学習課題に対する自分の意見を書くように指示する。 ⑧自己評価をするよう指示する。	⑥二百字で、学習課題に対する自分の考えを書く。 ⑧自己評価をし、本時の学習を振り返る。	・学習課題…『廃棄物処理する問題の解決策として微生物の働きを利用する試み』とは、どのような試みなのか ・自己評価項目 「本文から具体的な例を読み取り、レポートの形式にまとめることができたか」

本時の目標…自分の意見を書くことで、結論部分の筆者の意見をまとめることができるようにする。
 本時の展開…単元構想⑥

導入	指導者の活動	生徒の活動	指導上の留意点 ◇支援 評価場面
十分	①本時のねらいを提示する。 ねらい 自分の意見を書き、筆者のメッセージを受け止めよう。 ②身につけたい力を確認する。 ③ワークシートを配付し、導入・本文・まとめをレポート形式で要約することでレポートの練習をすることを伝える。 ④グループ活動 ワークシートの導入・本文の部分をまとめる。 ⑤全体で確認する。 ⑥結論部分（形式段落⑰⑱）を音読し、ワークシートに内容を要約するよう指示する。 ⑦全体で確認した後、用紙を配付し、結論に対する自分の意見を書くよう指示する。 ⑧自己評価をするよう指示する。	①ねらいを全員で音読する。 ②第一時のワークシートを見直し、確認する。 ③配付されたワークシートから、本時の学習活動をイメージする。 ④グループで相談しながら、これまでの授業でまとめた導入・本文について更に短くまとめる。 ⑤グループ内でまとめた意見を発表する。補足すべきところがあれば補足する。 ⑥筆者の意見をまとめ、自分の意見を考えるために、段落⑰⑱を音読する。音読が終わった生徒から要約し、グループ内で交流する。 ⑦全体の意見を聞き、補足などをすべきところはする。配布された用紙に、筆者からのメッセージとして受け止めたことを百六十〜二百字で書く。	・指導上の留意点 ◇支援 ◇音読することで本時の活動を理解し、意識できるようにする。 ・毎時間、確認するよう指示する。
展開一 二十分	③ワークシートを配付し、導入・本文・まとめをレポート形式で要約することでレポートの練習をすることを伝える。 ④グループ活動 ワークシートの導入・本文の部分をまとめる。 ⑤全体で確認する。	③配付されたワークシートから、本時の学習活動をイメージする。 ④グループで相談しながら、これまでの授業でまとめた導入・本文について更に短くまとめる。 ⑤グループ内でまとめた意見を発表する。補足すべきところがあれば補足する。 ⑥筆者の意見をまとめ、自分の意見を考えるために、段落⑰⑱を音読する。音読が終わった生徒から要約し、グループ内で交流する。	◇穴埋め形式にすることで、振り返りを確実にすることができる。 ・全員音読する。
展開二 十五分	⑦全体で確認した後、用紙を配付し、結論に対する自分の意見を書くよう指示する。 ⑧自己評価をするよう指示する。	⑦全体の意見を聞き、補足などをすべきところはする。配布された用紙に、筆者からのメッセージとして受け止めたことを百六十〜二百字で書く。	・結論（〜である。）と根拠（「なぜならば…」）を明確に書くよう指導する。 ・評価 筆者が伝えたい意見を読み取り、自分の意見を書いている。（読）「ワークシートまたはノート」 ・自己評価項目 「本文をレポート形式でまとめ、レポートの形式を理解することができたか」 「筆者が伝えたい意見を読み取り、自分の意見を書くことができたか」
まとめ 五分	⑧自己評価をするよう指示する。	⑧自己評価をし、本時の学習を振り返る。	・自己評価項目 「本文をレポート形式でまとめ、レポートの形式を理解することができたか」 「筆者が伝えたい意見を読み取り、自分の意見を書くことができたか」

本時の目標…文の成分について理解し、主語・述語などの整った文章を書くことができるようにする。
 本時の展開…単元構想⑦

導入	指導者の活動	生徒の活動	指導上の留意点 ◇支援 評価場面
五分	①本時のねらいを提示する。 ねらい 主語・術語、修飾語・被修飾語、接続語、独立語について理解し、整った文章を書こう。 ②身につけた力を確認する。 身につけた力 主語・述語などの整った正しい文章を書く力	①ねらいを全員で音読する。 ②第一時のワークシートを見直し、確認する。	◇音読することで本時の活動を理解し、意識できるようにする。 ・毎時間、確認するよう指示する。
展開一 十五分	③小学校での文法の既習事項の復習をする。 ④ グループ活動 一枚の絵から読み取れることについて、主語・述語、修飾語を用いながら文にすることを指示する。指導者が例としてまず一文を作る。	③小学校二年生、三年生、四年生で学習した「主語・述語」などについて配付されたプリントを見て学習内容を思い出す。 ④提示された一枚の絵について、主語・述語、修飾語の整った短文を書く。	◇小学生に対する資料を用いることで、文法事項へのスムーズな導入ができるようにする。 ◇③で確認し、取り組み方を例示することで、文を作りやすいようにする。 評価 「主語・述語」「修飾語・被修飾語」の整った文を書いている。(言)「ノート」
展開二 十五分	⑤ グループ活動 グループの中で見せ合い、確認し合ったあと、全体で発表するよう指示する。 ⑥どのような文ができたかを発表するよう指示し、いくつかを板書して用語についての復習をする。	⑤各自、作った文をグループ内で交流し合い、お互いに主語・述語などが整った文にする。 ⑥できた文を発表する。板書された内容をノートに写す。	・グループの中で指摘し合い、間違いなどに気づけるようにする。 ・「主語・述語」「修飾語・被修飾語」「接続語」「独立語」について、押さえる。
まとめ 十五分	⑦副読本の問題を解くよう指示する。 ⑧自己評価をするよう指示する。	⑦副読本 P 6 ～ 11 の問題を解く。 ⑧自己評価をし、本時の学習を振り返る。	・残りの問題は復習として次時まで家に家で解いてくるよう指示する。 ・指導者は問題を「全員に理解してほしい問題」「レポートを書く際に役に立つ問題」という視点で精選しておく。 ・自己評価項目 「文の成分について理解することができたか」

本時の目標…連文節などについて理解すること、整った文章を書くことができるようにする。
 本時の展開…単元構想⑧

	指導者の活動	生徒の活動	<ul style="list-style-type: none"> 指導上の留意点 ◇支援 評価場面
導入	①本時のねらいを提示する。 ねらい 連文節、並立・補助の関係について理解し、整った文章を書く。	①ねらいを全員で音読する。	◇音読することで本時の活動を理解し、意識できるようにする。
十五分	②身につけた力を確認する。 身につけた力 連文節などについて理解する力	②第一時のワークシートを見直し、確認する。	<ul style="list-style-type: none"> 毎時間、確認するよう指示する。
展開一 十五分	③前時の問題の答え合わせ・解説をする。 ④「連文節」「並立の関係」「補助の関係」について、教科書や資料を用いて説明する。	③副読本を開き、問題の答え合わせをする。 ④ノートに記入する。	◇④について、先に全体で学んでおくことにより、⑤の活動ができるようにする。
展開二 十五分	⑤グループ活動 副読本の問題を解くよう指示する。 ⑥解答・解説をする。	⑤副読本P12～P17の問題を解く。 ⑥解答をし、間違った問題に関して解説をメモする。	<ul style="list-style-type: none"> 指導者は問題を「全員に理解してほしい問題」「レポートを書く際に役に立つ問題」という視点で精選しておく。 評価 「連文節」「並立の関係」「補助の関係」についての問題を解き、五～八割正解している。(言)「ノート」
まとめ 五分	⑦自己評価をするよう指示する。	⑦自己評価をし、本時の学習を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価項目 「文の組み立てについて理解できたか」

本時の目標…種類の違う辞書に慣れることにより、必要に合わせて活用することができるようにする。
 本時の展開…単元構想⑨

導入	指導者の活動	生徒の活動	・指導上の留意点 ◇支援 評価場面
五分	①本時のねらいを提示する。 ねらい 種類の違う辞書を目的や必要に合わせて活用しよう。 ②身につけた力を確認する。 身につけた力 辞書などを活用する力	①ねらいを全員で音読する。 ②第一時のワークシートを見直し、確認する。	◇音読することで本時の活動を理解し、意識できるようにする。 ・毎時間、確認するよう指示する。
展開 四十分	③小学校での「辞書の引き方」に関する既習事項の復習をする。 ④グループ活動 教科書P142の1番の問題を解くよう指示し、答え合わせをし、辞書から他の慣用的な意味を探すよう指示する。	③小学校四年（上）「漢字字典の使い方」を配付されたプリントで確認し、学習内容を思い出す。 ④国語辞書を用いて1番の問題を解き、辞書の「目」「歯」「口」の項を開いて他にどのような慣用的な言い回しが載っているかを確認する。	・国語便覧の慣用句のページを活用してもよいことを伝える。 ・用途によって辞書を使い分けられるように、教科書P240を参考にする。 評価 多様な語句や語彙の意味・用法に関心をもち、国語辞典や漢和辞典から言葉の背景として得た知識をノートに書いている。(読)「ノート」
まとめ 五分	⑤グループ活動 漢和辞典を用いて2番の問題を解くよう指示し、時間を見て答え合わせをする。 ⑥グループ活動 3番の問題を、漢和辞典を用いて調べるよう指示し、時間を見て答え合わせをする。 ⑦自己評価をするよう指示する。	⑦自己評価をし、本時の学習を振り返る。	・自己評価項目 「国語辞典や漢和辞典を使って言葉の意味や用法を調べることができたか」 「国語辞典や漢和辞典に載っている言葉の背景に関心をもつことができたか」

本時の目標…種類の違う辞書に慣れることにより、必要に合わせて活用することができるようにする。
 本時の展開…単元構想⑩

	指導者の活動	生徒の活動	<ul style="list-style-type: none"> 指導上の留意点 ◇支援 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">評価場面</div>
導入	①本時のねらいを提示する。 ねらい 種類の違う辞書を目的や必要に合わせて活用しよう。	①ねらいを全員で音読する。	◇音読することで本時の活動を理解し、意識できるようにする。
五分	②身につけた力を確認する。 身につけた力 辞書などを活用する力	②第一時のワークシートを見直し、確認する。	<ul style="list-style-type: none"> 毎時間、確認するよう指示する。
展開一 二十五分	④グループ活動 教科書 P143の4番の問題を解くよう指示し、時間を見て答え合わせをする。 ③本時は、前時の続きの活動であることを伝える。	④漢和辞典を用いて4番の問題を解く。 ③前時のノートの続きと教科書P143を用意する。	<ul style="list-style-type: none"> 用途によって辞書を使い分けられるように、教科書P240を参考にする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">評価</div> 多様な語句や語彙の意味・用法に関心をもち、国語辞典や漢和辞典から言葉の背景として得た知識をノートに書いている。(言)「ノート」
展開二 十五分	⑤グループ活動 5番の問題を解くよう指示し、時間を見て答え合わせをする。 ⑥国語辞書または漢和辞典から、興味をもった言葉を、ノートに書くよう指示する。	⑤国語辞書を用いて5番の問題を解く。 ⑥どちらかの辞書を引き、その中で興味をもった言葉や、言葉の背景をノートに書く。	◇思いつかない生徒には、今回学習した「慣用的な言い回し」や「部首」のことを思い出させることにより、探すことができるようにする。
まとめ 五分	⑦自己評価をするよう指示する。	⑦自己評価をし、本時の学習を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価項目 「国語辞典や漢和辞典を使って言葉の意味や用法を調べることができたか」 「国語辞典や漢和辞典に載っている言葉の背景に関心をもつことができたか」

本時の目標…課題に合った適切な情報を集めることができるようにする。
 本時の展開…単元構想⑩ 場所…図書室

	指導者の活動	生徒の活動	指導上の留意点 ◇支援 評価場面
導入	①本時のねらいを提示する。	①ねらいを全員で音読する。	◇音読することで本時の活動を理解し、意識できるようにする。
五分	ねらい 課題に合った適切な情報を集めよう。		
	②身につけた力を確認する。	②第一時のワークシートを見直し、確認する。	・毎時間、確認するよう指示する。
	身につけた力 必要な情報を集める力		
	③ノートに各自の課題を書くよう指示する。	③ノートを開け、右側にレポートテーマを書く。真中にマッピング用にキーワードを書く。	・ノートのとり方を全員統一する。 ・マッピングによって、調べた情報を書く前に整理するよう指示する。
展開一 二十分	④グループ活動 情報を調べるために必要な本を選び、マッピングを始めるよう指示する。	④各自、情報を調べるために必要な本を選び、マッピングを始める。一通り終わったら、マップをみながらレポートの構成を考える。	・全員がマッピングできるように、教科書P137の例を参考にする。 評価 必要な資料から情報を収集している。(書)「ノート」
展開二 二十分	⑤グループ活動 マップの中から選んだことについて、カードに情報を書くように指示する。	⑤④で考えた構成をもとに、必要だと思われる情報をカードに書いて残しておく。	・必要な情報を整理するよう、教科書P137のカード例を参考にする。 ・並べ替えて構成を考えることができるようカードを使う。
まとめ 五分	⑦数名を指名し、個の時間にとのようなことをすることができたかを質問する。 ⑧自己評価をするよう指示する。	⑥何をすることができたかを発表したり他の人の意見を聞いたりする中で、整理する。 ⑧自己評価をし、本時の学習を振り返る。	・自己評価項目 「必要な資料から、情報を収集することができたか」 「調べた情報をカードにまとめることができたか」

本時の目標：レポート全体の構成を考え、集めた情報を取捨選択しながら書くことができるようにする。
 本時の展開：単元構想⑫

導入	指導者の活動	生徒の活動	指導上の留意点 ◇支援 評価場面
五分	① 本時のねらいを提示する。 ねらい レポート全体の構成を考え、情報を取捨選択しながら書くこと。 ② 身につけたい力を確認する。	① ねらいを全員で音読する。 ② 第一時のワークシートを見直し、確認する。	◇音読することで本時の活動を理解し、意識できるようにする。 ・毎時間、確認するよう指示する。
展開一 十分	③ 前時のノートを開くよう指示する。 ④ グループ活動 ノートの情報の中から、「自分が最も伝えたいこと」「相手にわかりやすく伝えるための工夫」「図やグラフの必要性」について考えるよう指示する。	③ マッピングと集めた情報カードを確認し、前時の内容を思い出す。 ④ 「自分が最も伝えたいことは何か」「どのような情報を加えれば相手にわかりやすいか」「図やグラフにしたほうがよい情報がなにか」を考え、ノートに入したり赤で印をつけたりする。	◇グループの中で相談することにより、一人では気づくことのできなかつた視点に気づくことができるようにする。 評価 上記三点について考えたことをノートに明確に書いている。(読)「ノート」
展開二 三十分	⑤ グループ活動 全体の構成を考え、目次を書くよう指示する。	⑤ 伝える順序を考え、各自、目次案を書く。グループで読み合い、付箋を使って意見交流をする。	・必要に応じて小見出しを書くよう指示する。 ・目次案が完成したらグループで読み合う。 ・赤：良いと思ったところ 緑：直したほうがよいと思ったところ ・できるだけ具体的に良いところを伝え、どのように直せばよいのかも具体的に書くように指示する。
まとめ 五分	⑥ レポートの下書きをノートに書くよう指示する。 ⑦ 自己評価をするよう指示する。	⑥ ノートに「調査の目的・動機」「調査の方法」を下書きする。 ⑦ 自己評価をし、本時の学習を振り返る。	・自己評価項目 「最も伝えたいことをはっきりと書くことができたか」 「目次案を考え、書くことができたか」 「調査の目的や動機、方法について、ノートに下書きをすることができたか」 「お互いに読み合い、推敲するところを指摘し合えたか」

本時の目標…意見の伝わる書き方を学び、相手意識をもって文章をまとめることができるようにする。
 本時の展開…単元構想⑬

導入	指導者の活動	生徒の活動	指導上の留意点 ◇支援 評価場面
五分	①本時のねらいを提示する。 ねらい 意見の伝わる書き方を考え、相手にわかりやすい文章を書こう。 ②身につけた力を確認する。 身につけた力 根拠を明確にして書く力 文章を読み合い参考にする力	①ねらいを全員で音読する。 ②第一時のワークシートを見直し、確認する。	◇音読することで本時の活動を理解し、意識できるようにする。 ・毎時間、確認するように指示する。
十分	③前時のノートを開くよう指示する。 ④グループ活動 レポート用紙を配付し、「調査の目的や動機」「調査の方法」の推敲・清書をするよう指示する。	③ 「調査の目的や動機」「調査の方法」について下書きした。ページを開く。	・推敲するための話合いが前時にできていないようであれば、時間をとる。 ◇ 「調査の目的や動機」について、事実と意見の書き分けができていないかを確認させることにより、相手に伝わりやすい文章を書くことができるようにする。 評価 事実と意見を書き分け、相手意識をもってまとめている。(書) (レポート用紙)
展開一 三十分	⑤グループ活動 レポートの下書きをノートに書くよう指示する。 ⑥⑤で書いた下書きを読み合い、推敲するよう指示する。	⑤ 「調査の内容」「考察」「参考文献」の下書きをする。 ⑥⑤で書いた下書きをグループの中で読み合い、付箋を使ってアドバイスし合う。	・読み合ったら、付箋の内容をもとに、推敲する。 ・赤…良いと思ったところ ・緑…直したほうが良いと思ったところ ・できるだけ、どのように直せばよいのかを伝えるように指示する。
まとめ 五分	⑦自己評価をするよう指示する。	⑦自己評価をし、本時の学習を振り返る。	・自己評価項目 「事実と意見を書き分けることができたか」 「構成や内容を工夫して、読みやすい文章を書くことができたか」 「付箋を使ってアドバイスし合い、推敲することができたか」 ・下書きが時間内に最後まで書けなかった生徒は、次時まで書いておくよう指示する。

本時の目標…意見の伝わる書き方を学び、相手意識をもって文章をまとめることができるようにする。
 本時の展開…単元構想⑭

導入	指導者の活動	生徒の活動	指導上の留意点 ◇支援 評価場面
五分	①本時のねらいを提示する。 ねらい 意見の伝わる書き方を考え、相手にわかりやすい文章を書こう。 ②身につけた力を確認する。 身につけた力 読みやすくてわかりやすい文章を書く力	①ねらいを全員で音読する。 ②第一時のワークシートを見直し、確認する。	◇音読することで本時の活動を理解し、意識できるようにする。 ・毎時間、確認するよう指示する。
展開一 二十分	③前時のノートを開くよう指示する。 ④ グループ活動 前時の続きのレポート用紙に「調査の内容」「考察」「参考文献」を推敲・清書するよう指示する。	③「調査の内容」「考察」「参考文献」について下書きしたページを開く。 ④前時の続きのレポート用紙に「調査の内容」「考察」「参考文献」を推敲・清書する。	◇「調査の内容」には調べたことを項目ごとに書くことや、「考察」には自分の意見を書くことを指導することで、相手に伝わりやすい文章を書くことができるようになる。 評価 事実と意見を書き分け、相手意識をもってまとめている。(書)「レポート用紙」
展開二 二十分	⑤ グループ活動 グループで、完成したレポートを読み合い、交流することを指示する。 ⑥推敲するよう指示する。	⑤付箋を使って、良いところと更に工夫できるところをアドバイスし合う。 ⑥伝え合った部分を推敲する。	・読み合ったら、付箋紙を基に推敲し合う。 ・赤…良いと思ったところ ・緑…更に工夫できるところ ・視点の例：「主語・述語・修飾語の正しさ」「表現の仕方」「文章がわかりやすく読みやすい(論理的)」「丁寧に書かれている」など。 ・⑥の時間内に推敲ができなかった生徒は家で推敲してやることを確認する。
まとめ 五分	⑦次時は全体で交流することと完成していない生徒はそれまでに完成させてくることを指示する。 ⑧自己評価をするよう指示する。	⑦レポート用紙の完成度を確認する。 ⑧自己評価をし、本時の学習を振り返る。	・自己評価項目 「事実と意見を書き分けることができたか」 「構成や内容を工夫して、読みやすい文章を書くことができたか」 「付箋を使ってアドバイスし合い、推敲することができたか」

本時の目標…レポート内容を発表し合い、事実や意見などを相手にわかるよう伝えることができるようにする。
 本時の展開…単元構想⑩ 前時までとは違う編成の班で座るよう指示しておく。

導入	指導者の活動	生徒の活動	指導上の留意点 ◇支援 評価場面
五分	① 本時のねらいを提示する。 ねらい レポート内容を発表し合い、事実や意見を相手にわかりやすく伝えよう。 ② 身につけたい力を確認 身につけたい力 事実や意見などを、わかりやすく話し伝える力	① ねらいを全員で音読する。 ② 第一時のワークシートを見直し、確認する。 ③ 相互評価表の「プレゼンテーションの型」を見て、プレゼンテーションをするときに気をつけることを知る。	◇音読することで本時の活動を理解し、意識できるようにする。 ・毎時間、確認するよう指示する。
五分	③ 相互評価表を配付し、「プレゼンテーションの仕方」について学ぶことを説明する。 プレゼンテーションの型 O：オリエンテーション I：イントロダクション（内容をざっくり一言で言う。） B：ボディ（具体的な内容。） C：コンクルージョン（結論。）	③ 相互評価表の「プレゼンテーションの型」を見て、プレゼンテーションをするときに気をつけることを知る。	・レポートに「書いた内容」を、相手にわかりやすく伝えるために「話し言葉」に変える手段を学ぶことを伝える。 ・評価は、この「型」に沿ってどれだけわかりやすく話すことができていたかということの評価する。
五分	④ 全員に向けて司会者の説明をした後、司会者を指名し、司会者カード	④ 全員、司会者の進行の仕方についての説明を聞く。その後、司会者は教卓までカードを取りに行く。	・全員が今後、司会者をするようになるので、全員に聞かせる。指導者ではなく司会者がグループで発表会の進行をすることを理解させる。 ・練習の時間をとることで、堂々と読めるようにする。 ・司会者が司会者カードを利用して進める。 ◇相互評価をすることにより、発表やレポート内容に自信をもつことができるようになる。
二十分	⑤ グループ活動 はじめに二分間の練習時間をとって、その後一人ずつ発表・交流することを伝える。	⑤ はじめの二分間は、各自練習をする。次にレポート用紙を必要に応じて見せながら、自分の調べたことについて発表し、相互評価をして交流する。	評価相手に、調べたことが正確に伝わる発表をすることができている。 （話聞）「評価シート」
展開一 十五分	⑥ グループ活動 視点ごとに、順番に「良かった人」に起立するよう指示する。	⑥ 相互評価表を見て、高く評価された視点で起立する場面を決める。 ← 同じ班の人が具体的に良かったところを発表する。 ← 拍手される（またはする）。	進行例：『O（相手をひきつける「見出し」）がよいと評価された人、起立してください。』 ↓「具体的にはどのようなところが良かったかを、同じ班の人は発表してください。」（いくつかの班の数名を指名する） ↓「では、『相手をひきつける見出し』を考えることができました人たちに、全員で拍手しましょう。」 ↓「では次に…」
まとめ 五分	⑦ 自己評価をし、単元5の学習の感想を書くよう指示する。	⑦ 自己評価をし、本時の学習を振り返るとともに、感想を書くことで単元5の学習を振り返る。	・自己評価項目 「相手に伝わるように工夫して発表することができたか」 「相手に向けて評価をしっかりとすることができたか」